
2022年3月期 第1四半期
決算説明資料

2021年8月5日

I. 決算及び事業の概況

II. 当社の経営目標及び株主還元について

III. 参考資料

本資料は、株式会社マネーパートナーズグループの事業及び業界動向についての株式会社マネーパートナーズグループによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確実性がつきまっています。

既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

株式会社マネーパートナーズグループは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2021年8月5日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社マネーパートナーズグループにより2021年8月5日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

I. 決算及び事業の概況



2022年3月期第1四半期 業績（前年同期比）

営業収益は、前第1四半期は新型コロナによる世界的な金利低下による影響等を受けスワップ収益が著しく減少しました。

当第1四半期も金利低下の影響を受けながらも、スワップカバー手法の弾力的な運用により想定内の結果を示現しました。同時に業界トップ水準の提示レートナロー化を実行するというスプレッド戦略を転換（施策はP8～9参照）した事により市場の変動率が低調に推移するなかでもトレーディング損益が堅調に推移し**増収基調**となりました。

営業利益は、新規顧客獲得や既存顧客にキャッシュバックキャンペーンを実施し取引高増加を図ることで取引関係費が増加した一方、連結子会社の事業撤退（前年同期は開業前コスト計上）など不採算事業の見直し等による大幅なコストカットを推し進めたこと等により、販売費・一般管理費が205百万円減少し**増益**となりました。

その結果、最終利益は391百万円増加の**167百万円**で着地しました。



(単位：百万円)

	2021/3期 Q1	2022/3期 Q1	前年同期比	
	(2020年4～6月)	(2021年4～6月)	増減額	増減率
営業収益	1,030	1,278	+248	+24.2%
受入手数料	7	9	+1	+16.2%
トレーディング損益	995	1,211	+216	+21.7%
金融収益	2	1	▲1	▲59.1%
その他の売上高	23	56	+32	+136.9%
金融費用	43	26	▲16	▲38.8%
売上原価	10	42	+31	+308.5%
純営業収益	976	1,210	+233	+23.9%
販売費・一般管理費	1,212	1,006	▲205	▲17.0%
営業利益	▲235	203	+439	—
経常利益	▲235	203	+439	—
特別利益	0	24	+24	—
税金等調整前四半期純利益	▲235	227	+463	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲223	167	+391	—



2022年3月期第1四半期 業績（前四半期比（1-3月））

営業収益は月次で4億円越えの水準を確保したものの、外国為替相場の変動率が低調で減少しました。

営業利益は、連結子会社の事業撤退や、3月に計上した貸倒引当金繰入額減少等により販売費・一般管理費が250百万円減少し**増益**となりました。

その結果、最終利益は369百万円増加の**167百万円**で着地しました。

（単位：百万円）

	2021/3期 Q4	2022/3期 Q1	前四半期比	
	(2021年1~3月)	(2021年4~6月)	増減額	増減率
営業収益	1,457	1,278	▲178	▲12.3%
受入手数料	10	9	▲1	▲10.5%
トレーディング損益	1,362	1,211	▲150	▲11.0%
金融収益	1	1	▲0	▲37.9%
その他の売上高	83	56	▲27	▲32.3%
金融費用	79	26	▲53	▲66.9%
売上原価	47	42	▲5	▲11.9%
純営業収益	1,330	1,210	▲119	▲9.0%
販売費・一般管理費	1,256	1,006	▲250	▲19.9%
営業利益	73	203	+130	+177.1%
経常利益	69	203	+134	+193.8%
特別利益	▲0	24	+24	—
特別損失	573	—	▲573	—
税金等調整前四半期純利益	▲504	227	+732	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲202	167	+369	—

前四半期比決算概況

	2021/3期 4Q (2021/1～2021/3)	2022/3期 1Q (2021/4～2021/6)	前四半期 対比増減
※外国為替取引高	2,357 億通貨単位	➡ 2,281 億通貨単位	▲3.2%
営業収益	1,457 百万円	➡ 1,278 百万円	▲12.3%
純営業収益	1,330 百万円	➡ 1,210 百万円	▲9.0%
経常利益	69 百万円	↗ 203 百万円	+193.8%

※外国為替取引高にはCFD（差金決済取引）の取引高（原取引単位を米ドルに換算）を含めて表示しております。

損益影響ファクター

前四半期比

- FX取引高 ➡
- FX収益性 ➡
- 販管費 ↘

- FX取引高は、米ドル／円のボラティリティが5～6月に低水準で推移した市場の影響を受けながらも、5月からパートナーズFX nanoにおいて時間限定でドル／円を売買同値（スプレッド0.0銭）とするキャンペーンや、キャッシュバックキャンペーンに注力したこと等により微減にとどまる。
- FX収益性は、一定の水準を確保できてはいるものの、取引高減少に伴い若干の低下。
- 販管費は、不採算事業の見直しによるコスト削減や前四半期の新興国通貨の急落に伴う貸倒引当金繰入れの計上があったため、250百万円の大幅な減少。

パートナーズFX nano「売買同値」 米ドル/円スプレッド0.0銭

FXを1回あたりの取引数量が100通貨～20万通貨まで取引できる「パートナーズFX nano」において、

“5月3日より米ドル/円にてスプレッドを時間限定で
「**売買同値**」（スプレッド0.0銭）“

とするキャンペーンを実施しております。

キャンペーンの特徴は、売買同値（スプレッド0.0銭）をお客様のお取引の多い時間帯（18：00～21：00）に提示していること、1回の注文で20万通貨まで取引が可能であること、0.0銭の提示率が100%であることで、FX業界で（為替市場でも）これまで実施されたことのない画期的なサービスとなっております。

このキャンペーンを実施したことで、取引が一定期間なかったお客様の再稼働、これまで取引のなかったいわゆる未稼働顧客の稼働などで、米ドル/円の取引高の大幅増加や、米ドル/円以外の取扱通貨ペアの取引高も増加したため全体出来高の底上げが図れたことなど多くの成果を得ることができております。

大好評! 2021年6月18日まで延長決定!

FX nano 米ドル/円

米ドル/円スプレッド
18:00～21:00
原則固定(例外あり)

0.0 銭

1回あたり100通貨～20万通貨まで注文可能!

大好評 延長決定! 5月10日～21日 18:00～21:00

nano 米ドル/円 スプレッド0

売買同値

※原則固定(例外あり)

16:00～23:00のスプレッドにも注目!



スプレッド縮小とキャッシュバックキャンペーンの実施

パートナーズFX nanoでは、主要取扱通貨のスプレッドを縮小し、業界トップ水準のナロー化を実行、特に多くの取引が集中する16:00~23:00の時間帯において米ドル/円以外の豪ドル/円、ポンド/円、ユーロ/円、トルコリラ/円、ポンド/米ドル、豪ドル/米ドルでも**業界最狭水準までスプレッドを縮小**する施策を実施しました。

パートナーズFXでは、ポンド/円、豪ドル/円など10通貨において**業界2~3位のナロー**スプレッドを提示するとともに主要取扱通貨（11通貨）で**業界トップ水準のキャッシュバック**をあわせて実施し、取引高増加に向けた訴求をおこないました。5月~6月にかけては米ドル/円や、豪ドル/円など主要通貨に加え、ユーロ/米ドル、ポンド/米ドル、豪ドル/米ドルのストレート通貨ペアをキャッシュバックキャンペーンに追加するなど、大幅な利益還元を実施するという他社との差別化を図りました。

CFD-Metals（金・銀/米ドル）においても、16時~23時の時間帯で**業界最狭水準のスプレッドを提示**し、終日でもスプレッドを縮小し、さらに業界初のキャッシュバックを実施しました。

更なる商品性の洗練化や認知度を高める施策を打ち出し、業績向上に邁進してまいります。



5月[第2週]も終日キャッシュバック! 期間 5月17日(金)~6月4日(金)

好評につき **6月4日** まで延長決定

最大 ~~100~~ 万円の
最大金額の
上限なし!!

- ユーロ/米ドル
- ポンド/米ドル
- 豪ドル/米ドル

無制限キャッシュバック!!

5月24日から追加!





四半期販管費推移（販管費内訳及び主要費目の推移）

<主な増減要因（2021年3月期第4四半期との比較）>

主としてコイネージ社事業撤退による固定費減少

貸倒引当金繰入れ（減少）：前四半期に計上した新興国通貨の急落による引当金の戻しによるもの

取引関係費（増加）：外国為替取引高減少に伴い支払手数料等は減少したが、下記要因にて2.5%の増加

広告宣伝費（増加）：新規顧客獲得や既存顧客取引促進、キャッシュバックキャンペーンによる増加

（単位：百万円）

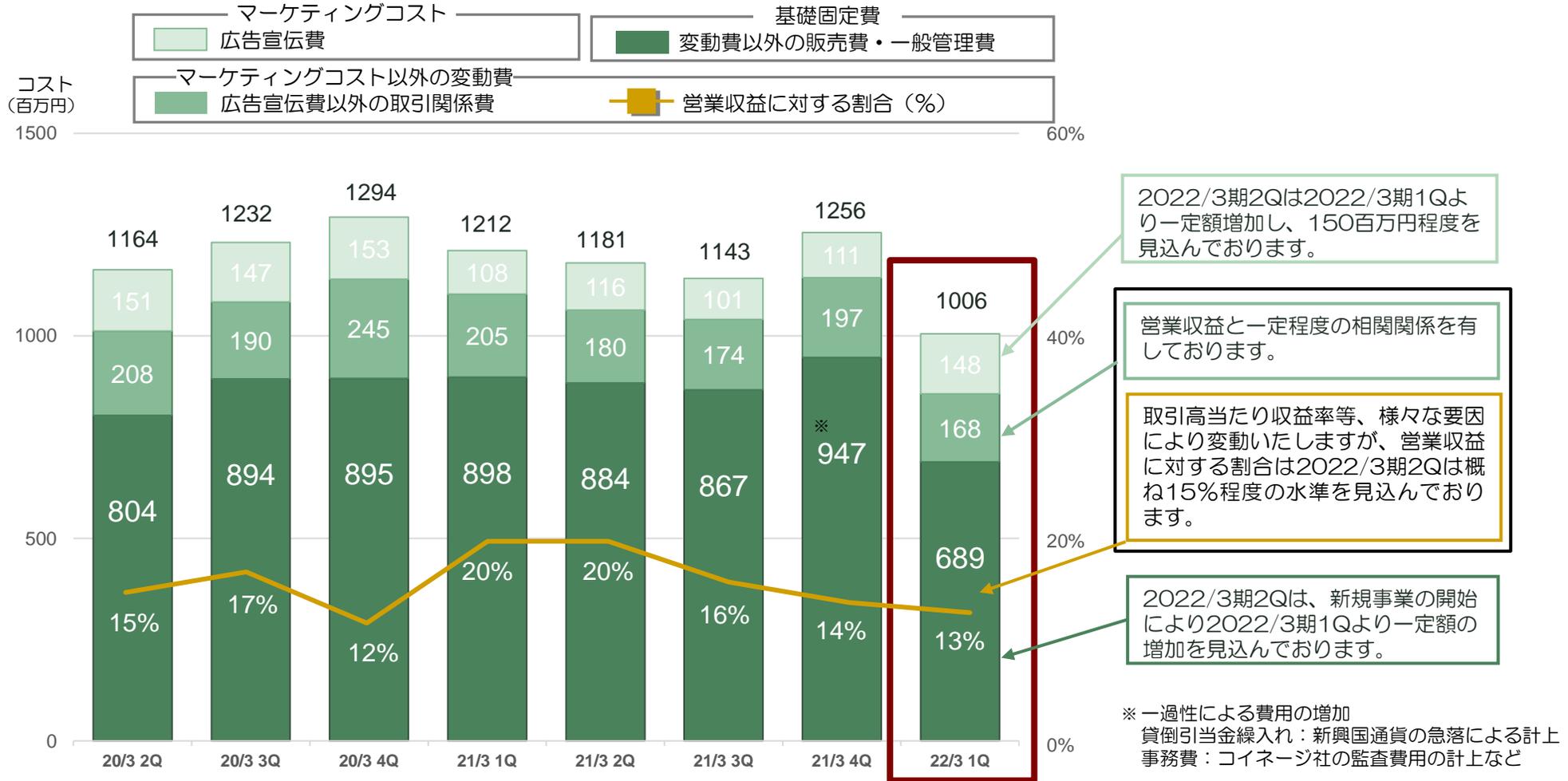
	2020/3期			2021/3期			2022/3期 1Q (4月~6月)	前第4四半期対比増減		
	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)		4Q (1月~3月)	増減額	増減率
取引関係費	359	338	398	313	297	276	309	317	+7	+2.5%
人件費	274	261	295	291	285	273	267	207	▲59	▲22.4%
不動産関係費※	165	182	178	168	163	156	166	142	▲24	▲14.5%
事務費	225	252	202	224	229	222	248	191	▲57	▲23.0%
減価償却費	93	148	151	153	173	173	158	135	▲23	▲15.1%
租税公課	30	28	43	31	15	22	12	22	+10	+89.2%
貸倒引当金繰入れ	▲0	▲0	1	▲1	▲0	▲0	74	▲26	▲101	▲135.8%
その他	14	21	23	30	17	18	19	17	▲2	▲12.8%
販売費・一般管理費計	1,164	1,232	1,294	1,212	1,181	1,143	1,256	1,006	▲250	▲19.9%
（主要な費目）										
広告宣伝費	151	147	153	108	116	101	111	148	+37	+33.4%

※不動産関係費には、不動産費の他、器具・備品費が含まれております。



四半期固定費・変動費推移と今後の動向

2022年3月期第2四半期の固定費は暗号資産CFDのサービス開始（予定）に伴い増加を見込んでおります。広告宣伝費に関しては取引高増加に向けた新規及び既存のお客様への商品訴求（売買同値（スプレッド0.0銭））の強化、また暗号資産CFDサービスインに伴う増加が予測され、当四半期を超える水準を見込んでおります。





『米ドル/円』スプレッド0.0銭を24時間提示

パートナーズFX nano 米ドル/円において、5月3日から実施している18:00~21:00の時間帯でのキャンペーン（スプレッド0.0銭 1回当たりの取引数量20万通貨まで）に加え、7月26日より1回あたりの取引数量5万通貨までなら原則24時間スプレッド0.0銭で取引できる驚異的なキャンペーンを新たに開始しております。なお、5万通貨超20万通貨までの取引においても、0.0銭~0.2銭までの**終日業界最狭水準**でスプレッド提示を行っております。

nano 米ドル/円 7月6日 - 8月20日

スプレッド縮小キャンペーン

7/26からの新条件

注文数量 5万通貨まで **24時間**

注文数量 20万通貨まで **18:00~21:00**

0.0 銭

※5:30~7:30は10万通貨が上限となります。
※主要経済指標発表時等の急変時、国内外の休日や平日早朝など激しい変動相場時はやむを得ずスプレッドを拡大する場合がございます。

7/26からの新条件!

1回あたり5万通貨までのお取引は、24時間0.0銭!

注文数量 5万通貨まで **24時間 0.0 銭**

ひき続き

20万通貨までのお取引もスプレッド縮小継続中!

営業開始~	16:00	18:00~21:00	23:00	~営業終了
	0.2 銭	0.1 銭	0.0 銭	0.1 銭
				0.2 銭

5:30~7:30は10万通貨、23:00~16:00は30万通貨が上限となります。
※主要経済指標発表時等の急変時、国内外の休日や平日早朝など激しい変動相場時はやむを得ずスプレッドを拡大する場合がございます。

暗号資産CFDの提供

「暗号資産関連店頭デリバティブ取引」（CFD（差金決済取引））のサービス開始に向け準備を行っており、ビットコイン/円・イーサリアム/円・ビットコインキャッシュ/円・ライトコイン/円の主要4銘柄を取扱う予定となっております。

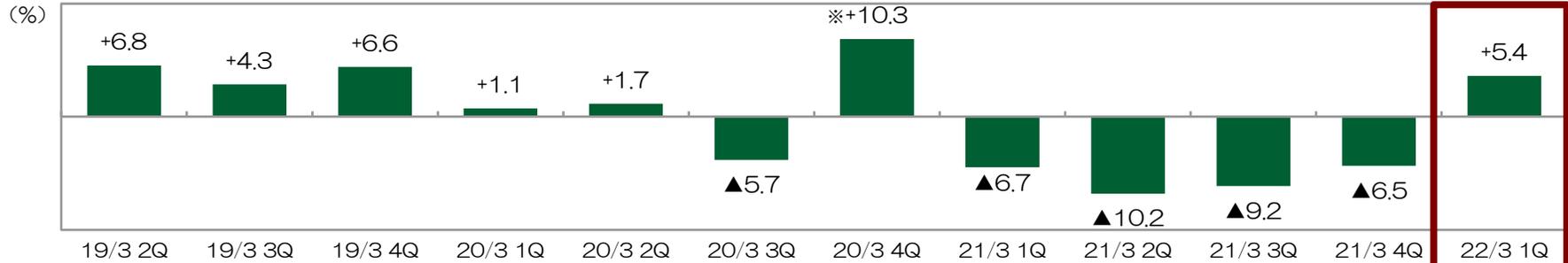
Ⅱ. 当社の経営目標及び株主還元について



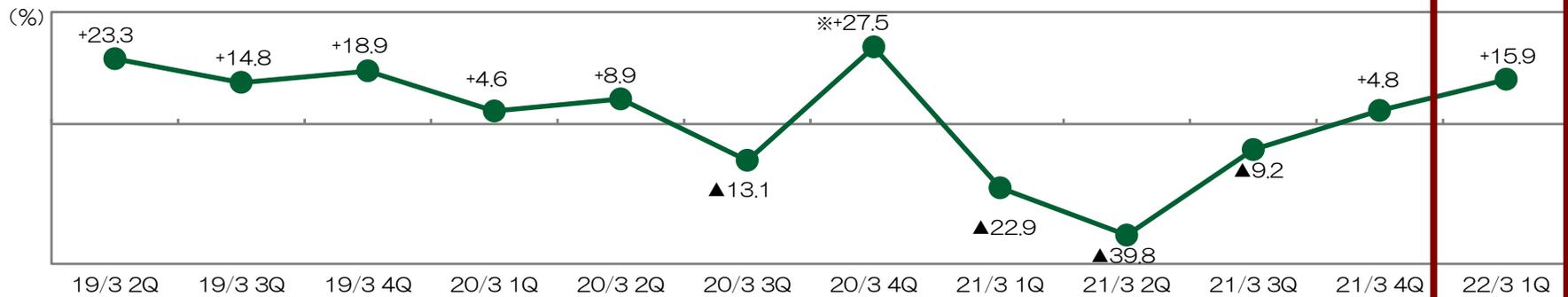
当社の経営目標：ROE及び営業収益経常利益率の向上

- 当社は、企業価値の最大化のため自己資本を効率的に活用することを重視しております。
- このために効率的な収益構造の実現を目指して参ります。
- 効率性を計る尺度として、自己資本利益率（ROE）及び営業収益経常利益率を重要な経営指標として位置づけております。

自己資本利益率（ROE）



営業収益経常利益率



※2020年3月期4Qについては、3月に新型コロナの影響を受け値幅が10円を超えるボラティルな展開となりました。その影響で営業収益は2010年5月以来の10億円を超えたため、一過性な収益となっております。



株主還元について

配当方針

配当性向
親会社株主に帰属する当期純利益の
30%を目処

配当機会

中間及び期末（年2回）

	2021年3月期				2022年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	▲223	▲332	▲292	▲202	167	—	—	—
上段：3ヶ月	▲223	▲556	▲848	▲1,050	167	—	—	—
配当金の総額（百万円）	16		—		—	—		—
期末発行済 株式総数（株）	33,801,900		33,801,900		—	—		—
	(内、自己株式1,202,300)		(内、自己株式1,202,300)		—	—		—
1株当たり 配当金	中間・期末 0.5円		0.0円		未定	未定		未定
	年間		0.5円		未定			

当社は第2四半期末及び期末を基準日として剰余金の配当を行うことを基本方針としており、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を配当性向の目途としつつも、財務状況及び事業環境等を総合的に勘案して決定しております。

当社グループの主力サービスであるFXを軸とした「店頭デリバティブ取引」へ経営資源を集中させ、更なるコストの見直しを推し進めることでより一層の収益性の向上を図り、早期に復配できるよう更なる営業力の強化とコスト軽減に努めてまいります。

III. 參考資料



2021年3月期 第4四半期業績（前四半期比）

（単位：百万円）

	2021/3期			2022/3期	前四半期 対比増減
	2Q (7月～9月)	3Q (10月～12月)	4Q (1月～3月)	1Q (4月～6月)	
営業収益	902	1,123	1,457	1,278	▲12.3%
受入手数料	9	8	10	9	▲10.5%
トレーディング損益	851	1,045	1,362	1,211	▲11.0%
金融収益	1	0	1	1	▲37.9%
その他の売上高	41	68	83	56	▲32.3%
金融費用	41	42	79	26	▲66.9%
売上原価	25	39	47	42	▲11.9%
純営業収益	835	1,042	1,330	1,210	▲9.0%
販売費・一般管理費	1,181	1,143	1,256	1,006	▲19.9%
営業利益	▲346	▲101	73	203	177.1%
経常利益	▲359	▲103	69	203	193.8%
特別利益	0	—	▲0	24	—
特別損失	—	189	573	—	—
税金等調整前四半期純利益	▲359	▲292	▲504	227	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	▲332	▲292	▲202	167	—



月次業績指標推移

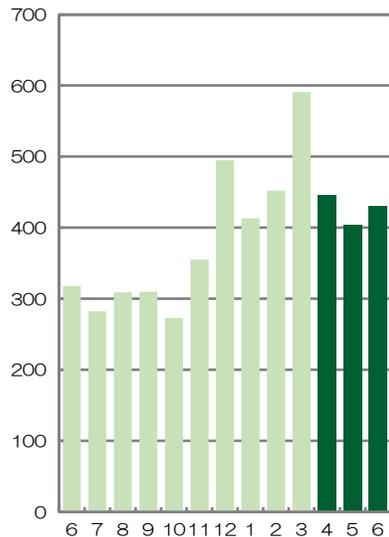
■ 月次営業収益、外国為替取引高、顧客口座数、顧客預り証拠金の推移

	2021/3期										2022/3期		
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2021/1月	2月	3月	4月	5月	6月
営業収益 (百万円)	318	282	309	310	273	355	495	413	452	591	445	403	430
外国為替取引高 (百万通貨単位)	106,893	75,910	85,460	82,287	60,129	75,348	71,190	66,894	71,453	97,402	72,253	82,478	73,411
顧客口座数 (口座)	340,825	340,830	340,840	340,768	341,218	341,138	341,086	341,521	341,690	342,122	342,801	343,397	343,817
顧客預り証拠金 (百万円)	61,807	62,331	62,751	65,155	62,104	61,812	61,175	60,590	59,575	59,081	58,635	56,276	56,581
内、一般顧客 (BtoB以外)	59,267	60,022	60,364	63,044	60,121	59,849	59,365	58,733	57,731	57,346	57,068	54,786	54,965

※営業収益、外国為替取引高及び顧客預り証拠金には2011年8月より開始したCFDに関する数値を含めております。
 ※2020年7月から2021年3月までの「営業収益」にはコインネージ社の数値が含まれております。

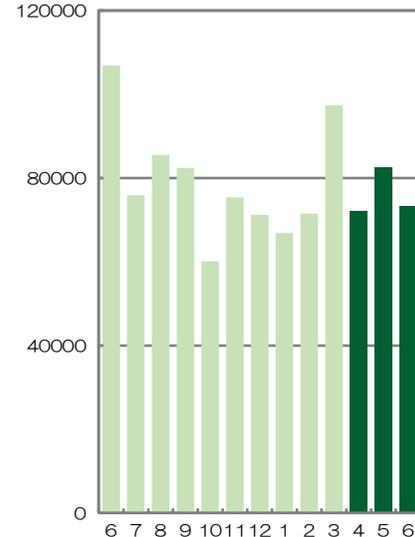
【営業収益】

(単位：百万円)



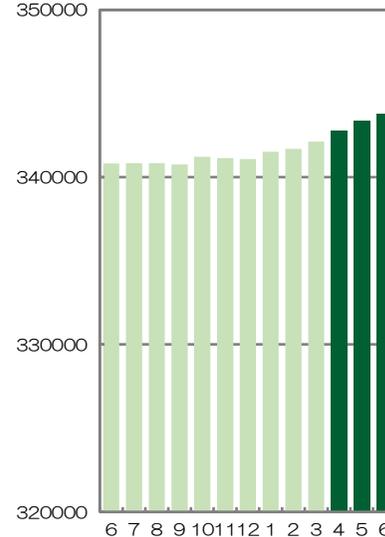
【外国為替取引高】

(単位：百万通貨単位)



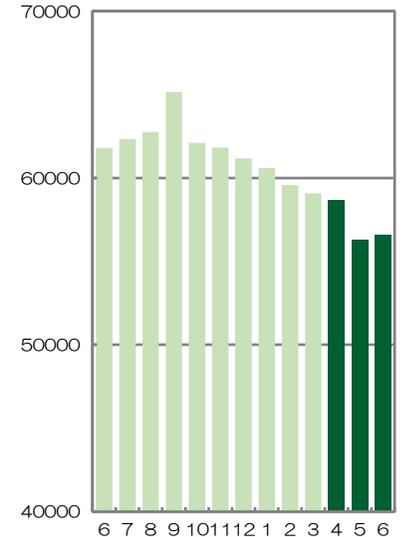
【顧客口座数】

(単位：口座)



【顧客預り証拠金】

(単位：百万円)





取扱い商品に係るリスク及び手数料等について

パートナーズFX、パートナーズFXnanoおよびCFD-Metalsは、取引時の価格またはスワップポイントの変動、およびスワップポイントは支払いとなる場合があることにより、売付時の清算金額が買付時の清算金額を下回る可能性があるため、損失が生じるおそれがあります。また、証拠金の額以上の投資が可能のため、その損失の額が証拠金の額を上回るおそれがあります。売付価格と買付価格とには差額（スプレッド）があります。

取引手数料は無料です。ただしパートナーズFXおよびパートナーズFXnanoの受渡取引に限り、1通貨単位あたり0.10円の手数料をいただきます。

パートナーズFXおよびパートナーズFXnanoの取引に必要な証拠金は、取引の額の4%以上の額で、証拠金の約25倍までの取引が可能です。法人コースの建玉必要証拠金金額は原則、一般社団法人金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの為替リスク想定比率を取引の額に乗じて得た額とします。為替リスク想定比率とは、金融商品取引業等に関する内閣府令第117条第27項第1号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。

CFD-Metalsの取引に必要な証拠金は、取引の額の5%以上の額で、証拠金の約20倍までの取引が可能です。国内上場有価証券の売買等に当たっては、最大で約定代金の2.75%の手数料（消費税込み）、最低手数料は取引形態等により異なり最大で2,750円（消費税込み）をいただきます。国内上場有価証券等は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の価格の変動等および有価証券の発行者等の信用状況（財務・経営状況を含む）の悪化等それらに関する外部評価の変化等を直接の原因として損失が生ずるおそれ（元本欠損リスク）があります。

取引開始にあたっては契約締結前書面を熟読、ご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願い致します。

〈商号〉株式会社マネーパートナーズ（金融商品取引業者・商品先物取引業者）

〈金融商品取引業の登録番号〉関東財務局長（金商）第2028号

〈加入協会〉日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会 日本商品先物取引協会

2022年3月期 第1四半期
決算説明資料

2021年8月5日